



不動の姿勢でビートルズ12作目のアルバム『アビー・ロード』を聴く。

## 3分で感動できるポップスの理想型

植松伸夫

(作曲家)

『ファイナルファンタジー』シリーズの作曲家として知られる植松伸夫は、世界各地の様々な音楽が日本に入ってきた70年代に音楽に目覚めた。ビートルズ同様、独学で大成した作曲家は彼らの音楽をどう聴いてきたのか。

僕が自分から音楽を聴き始めた一九七〇年代には、もうビートルズは解散していました。そのため人生で初めて聴いたビートルズの曲が何かということには正直覚えていません。若いころは最新のものが最高だと決めつけて、昔のものがあまり聴かないじゃないですか。だからちよつと古いビートルズを積極的に聴かなかつたんです。ただ(エイスタデイ)とかはビートルズの曲として知っていて、好きでした。

一三歳ぐらいだったかと思うのですが、当時、『オールディーズ』というビートルズの初期の編集もののベスト盤があつて。それを買ってきて聴きました。今ではデジタル配信で簡単に曲が買えますが、ダウンロードしても聴かないままにすることが多いように思います。当時は、買ったレコードは必ずかけていました。それも、スピーカーの前で正座してじっと動かずに。針は振動に弱いですからね。

目的は(エイスタデイ)(ミッシェル)といった、なんかきれいな曲だったんですけど、(ジー・ラヴズ・ユー)(キャント・バイ・ミー・ラヴ)とか、あと(バッド・ボーイ)とか、そういう初期のポップな曲がすごく新鮮で、単純に「ビートルズっていいなあ」って興味を持ちました。それから他のアルバムを聴き始めました。

を決めるのは難しいんですが、それでも一つ挙げるとすれば、(ヒア・ゼア・アンド・エヴリホエア)。あれはポール・マッカートニーの曲で、しつとり系のメロディがとても好きです。

### ジョンとポールの違い

思えば、僕はずっとジョン・レノンよりもポール・マッカートニーのほうが好きでした。ジョンに比べるとポールの音楽つてとがっているんですよ。ジョンはどこか、とんがったところを残さないと気が済まない性格のようで、どうしても丸く収めるっていうことをしたたらない。それに比べてポールは非常にバランス感覚がよい音楽家だと思います。性格つて音楽に出ますからね。僕もとがったロックは自分の性には合わないんです。

ビートルズにおけるジョンの意味みたいなものがわかってきたのは、ここ数年です。このメンバーだったからビートルズというバンドのバランスが取れていたのだと。ポールだけだと「ウイングス」になっちゃいますもんね。ビートルズはやっぱり個性の違うせめぎ合いがあつたバンドだったんだと最近よく思います。ジョンもポールも、ともに高く評価されている



### 『オールディーズ』

1966年にリリースされた、ビートルズの初期のベストアルバム。(ヘルプ!) (イエスタデイ) などのヒット曲に加え、このアルバムでしか聴けなかった(バッド・ボーイ)も収録されていた。

他に好きな作品としては『サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』とか『アビー・ロード』ですかね。僕が作った『ファイナルファンタジー7』の音楽は実験的な要素が強いです。『サージェント・ペパーズ』っぽいかもしれませんが。トータルでよくできているのは『アビー・ロード』かな。あのB面のメドレーは見事です。

ビートルズは時期によってサウンドが異なるし、あんなに音楽にバリエーションを持っている人たちも珍しいので、その中で一番好きな曲

### 神格化された伝説を信じるな

あらためて、ビートルズが現役のときにロックファンでいたかったなあと思えます。六〇年代にロックとか聴いていたら、どんな感じだったんでしょう。偉大な人たちが、伝説になつてしまふところがあるので、当時のロック